

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092300031		
法人名	社会福祉法人真福会		
事業所名(ユニット名)	グループホームはまゆう園はまゆう2		
所在地	和歌山県新宮市丹鶴2-5-20		
自己評価作成日	令和5年5月2日	評価結果市町村受理日	令和5年8月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和5年7月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小さな施設なので家庭的な中で生活ができるように心がけている。
 コロナ禍前には、外食や遠出をして楽しむことができていたが現在は、感染予防のために控えている。
 感染拡大がおさまってきた時期には、また外出の楽しい企画を再開したいと考えている。
 現在は、施設内または近所のできるレクリエーションを毎日行って活動的に生活できるように努めている。
 ケアについては、利用者様の状態の変化に対応できるように介護士たちが話し合う機会をつくり、考えて行動できる職員の育成に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームの近くには、熊野速玉大社や丹鶴城公園など観光名所もあり、賑やかな町並みから路地に入った閑静な住宅地にある。感染予防のため積極的な外出は出来ていないが、短時間でも気分転換を図れるよう散歩やドライブに出掛けるのは近所の人との交流ができてい。自治会にも参加し、高齢化の進む中でも事業所として協力出来ることはないか、共に地域を活性化できるよう今後の運営方針にも役立てるよう連携している。現在は、感染予防対策などサービスが種々制限されるなか、入居者の期待や要望に応えられるよう、細やかで穏やかなムード作りに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日頃から理念を踏まえた指導を行っている。	利用者本意の家庭的な雰囲気の中で、その人らしい暮らしを基本理念に掲げ、日々の業務の中で管理者や職員が共有して取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており地域に協力できる体制である。ご近所の生活に置いている課題には、集会に参加して解決に向けて話し合うなどする。	新型コロナ感染予防に努めながら、3年ぶりに自治会に参加した。地区でも高齢化が進み、自治会の運営も困難になっていることから、事業所でも協力できるよう交流を続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍前は、慰問の際にはご近所の方も呼び出して園の様子を見て頂くなどしていたが現在は、そのようなイベントは控えている。運営推進委員会に参加をして頂き、園の活動や認知症の人の支援について発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、会議を開催または、照会をして園の状況を報告し、評価や意見を聞き取ってサービスに反映している。	昨年末から2ヶ月に1回の運営推進会議を開催し、包括や地域代表、訪問看護事業所長も参加してもらい意見を受けて事業に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入退所の状況を報告する。必要時には相談報告を行い協力関係を築くことができるように取り組んでいる。	包括に出向いて入退所状況や、事業所の取り組み状況を報告し、市町村との協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会を行い、理解を深めている。玄関及び掃き出し窓の施錠は行わない。	年に2、3回は勉強会を開催している。事業所内においても、ユニットごとに月1回のカンファレンスを開催して、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について勉強会を行い、理解を深めている。人権委員会では、2か月に1回テーマを決めて全職員がそのテーマを守れたか、あるいはなぜ守れなかったかアンケートを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修の機会をつくり、理解を深めている。人権擁護委員会では、利用者様の権利擁護について話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定時には、十分に時間をとって説明している。一つ一つの項目について不安や疑問がないか確認を取りながら説明を進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置。 面会時や電話で利用者様の近況を報告する際にご意見や要望を聞き取っている。	意見箱は設置しているが、殆どは家族の面会時に口頭で意見を伺っている。遠方の家族などは電話やメール、ラインで近況報告し、意見や要望を聞き運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りや全体会議の際に職員からの報告や意見を聞き取り、運営に反映している。	各ユニットごとのリーダーが職員からの意見や提案を聞き、管理者と検討している。管理者は、人員不足を補う意味でも、勤務している職員への負担軽減を図れるよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は代表者と話し合いを持つ機会があり、職員の勤務状況や取り組みについて報告している。職員が向上心を持って働けるように職場環境等の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	能力に合った外部研修の参加を促している。内部研修は、毎月実施し各自が向上心や自信を持って働ける環境づくりに努めている。ケアに自信がない職員については、OJTでトレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新宮市連絡協議会やケアマネ会議に参加し、同業者との交流を図ってスキルアップする機会があり、サービスの質を向上させることに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で面談し、ご本人が困っていることや要望などを聞き取って、ご本人の安心を確保する為の関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で面談し、ご家族が困っていることや要望などを聞き取って、ご家族の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で面談してアセスメントを行い、他のサービス利用も含めた支援の方法を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様を人生の先輩と敬い、経験談を伺って得意な事を教えていただきながら、共に暮らす関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居した環境にあってもご家族の支援をなくしては、その人らしく暮らしていく事はできないと考える為報告連絡相談を随時行って共にご本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係を閉ざすことなく生活できるように今まで利用していた理美容や病院へ送迎している。	通院時に馴染みの場所に出向いたり、衣類の買い物に同行している。新型コロナ感染予防のため外出支援は控えていることについて、家族の理解も得られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係性を把握して仲の良い方が一緒に過ごせるように席順を配慮するなどして支え合える関係性を構築できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても転居先で情報提供を必要としていないか電話などで状況を確認している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で思いや暮らし方の希望を聞き取ることができるよう意図的に質問をして意向の把握に努めている。	意図的に利用者から食べたい物などを聞いたり、思いや希望を把握するよう努めている。職員の自己満足にならないよう、マニュアル通りの対応にならないよう努めている。居室に空きが出れば男女を問わず受け入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス導入時にアセスメントを行い、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様との生活の中の会話や一緒に過ごして観察を行う中で過ごし方や、心身状態、有する力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	検討が必要な方は、ケア方法の話し合いの中で意見やアイデアを出し合い、ケアプランに反映させている。	利用者の個々の検討課題を抽出し、家族には文書で意見を求め、職員間でアイデアを出し合い、現状に即した介護計画書を作成している。家族には再度郵送し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にケアの実践や結果、気づきや工夫について記入して職員間の共有に繋げている。個人記録を参照してケアの実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズの変化に対応して柔軟な支援を行うように心がけている。施設の多機能化は、難しい面はあるが介護士が得意な分野で対応し、固定しないケアを行うなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の社会資源を活用している。市の紙おむつ支給は、該当する方が利用できるように援助している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を主治医とそて継続している。ご希望があれば別の医療を受ける事ができるように援助している。	現在、往診を受けている利用者は1名であり、他の利用者は入所前からのかかりつけ医の診察に職員が付き添っている。夜間の緊急対応が必要な場合は、救急隊と連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化があればかかりつけ医を受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、医療へサマリーを提供している。退院時は、カンファレンス開催を依頼して病状や今後の生活の仕方等を確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には、重度化した場合や終末期のあり方について重要事項説明書を用いて説明している。主治医と連携して支援を行い、必要時は、訪問看護の利用も行っている。	入所時に看取り希望の確認をし、医師の許可を得られる場合は看取りを行っている。今年度は一人看取りを行った。今年5月より職員不足のため医療連携加算は算定していない。医師の指示により訪問看護事業所に対応を依頼している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時マニュアルを整備しており、定期的に内容を確認している。急変時や事故発生時の対応も定期的に職員と確認の機会を作っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に2回行っている。色々な状況を想定して訓練を行っている。	事業所は高台にあるため、水害を想定した訓練は実施していないが、火災や地震災害を想定した訓練を年2回(3月・9月)実施している。年1回は、消防署から指導に来てもらい実践しながらの訓練を実施している。今年度は3月に実施し、9月は事業所内で自主訓練を予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや対応の仕方が適切であるかをアンケートなどで確認している。できなかった場合は、なぜできなかったのかを全体会議で話し合っている。	職員全員に言葉使いや対応について、2、3ヶ月に1回のアンケート調査を実施している。人権や虐待などのテーマを決めて、年に2回は人権擁護委員会を開催し、研鑽に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で思いや希望を聞き取るような会話を心掛けている。選択の場面では、ご本人が決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	活動は、時間ごとに行うような決め事はしていない。利用者様のペースでお好きなこととして過ごすことができるように働きかけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	どのような好みなのか汲み取って身だしなみやおしゃれを援助している。ご自分で決定できる方は、その人にお任せして必要時は援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものを聞き取り、献立に反映している。台所で一緒に調理など行ったり、自席で包丁を使用して食材を切るなどして参加している。	今年5月までは利用者の食べたいものを聞き取り、献立から調理も職員と手伝える利用者で行ってきたが、5月から人員不足となり、職員への負担軽減のため冷凍食品配達で賄っている。刻みやミキサーなど利用者の状態に応じている。盛り付けや後片付けなど、出来ることは利用者にも手伝ってもらっている。誕生日会で職員がシフォンケーキを作り、蝋燭を立てて利用者を祝っている。	管理者及び職員は、以前のようにみんなが食事を楽しめるよう取り組みたいという意欲があるため、今後の活動に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	総合シートを使用して一人一人の食事量、水分量を把握する。記録から状態を確認して必要な対応を検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。ご自分でできない方は、必要な介助を行い、口腔内の状態を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	総合シートを使用して排泄の間隔を把握している。できる限りトイレで排泄できるように援助している。	排泄パターンや体調観察など、利用者一人ひとりの記録を1枚の総合シートに記録し、職員間で確認出来るように取り組んでいる。夜間のみポータブルトイレを設置する利用者もおり、極力オムツに頼らない取り組みを実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘改善のために便秘症の方には、毎日ヨーグルトを提供している。別の方法としては、牛乳にオリーブオイルを入れて提供し、便秘改善を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回曜日を決めて入浴日がある。その日の入浴の順番は、希望やタイミングに合わせてお誘いする。1対1の介助で脱着衣から入浴まで一人の介護士が担当している。	入浴は週2回実施している。浴槽は片面がスライド式で昇降し、浴槽跨ぎの負担がなく、利用者一人ひとりが綺麗なお湯で気持ち良く入浴できるよう配慮されている。入浴時間は、9:30~15:30の間で利用者のタイミングに合わせて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の就寝のタイミングで入室している。日中は、午睡希望の方や体調の具合で臥床した方が良い方はその時間を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルで疾患や服薬情報を確認できる。状態の変化については、随時カンファレンスで周知しており、対応方法についても検討する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力に合った家事や生活歴を活かした役割を一緒に行うことで生き生きとした生活や楽しみができるような支援を目指して実践している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご希望があれば意向に沿えるように努めている。天候の良い日は、外の椅子に座ってお茶を飲んだり、商店街を散歩する。コロナ禍で地域との交流ができていないが今後、感染状況によっては以前のような外出イベントを行う。	利用者の希望によって15分程度は散歩に出掛けたり、ドライブに出掛けている。通院の帰りに馴染みの場所に立ち寄ることもある。商店街のイベントも再開しつつあるが、高齢者の参加しやすい行事が少ない。地域の秋祭りには参加できるよう予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人や家族がお金を所持したい希望があればご自分で管理して頂く。そのお金を使って買い物の援助も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のご希望がある時には援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間の掃除は、毎日行い、清潔に過ごせるように努めている。テレビの番組や音量は、リビングで過ごす方の好みに合わせて配慮している。リビングには、季節に合う飾り物や花など生けている。	フロアへの採光は少ないが、床は木目調で壁や天井は白を基調にして明るさを保っている。壁やテーブルには、季節感を味わえるような作品を展示している。利用者と触れ合いやすい位置に台所があり、匂いや音など生活感のある空間作りがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間のあちこちに椅子を置いてあり、気の合う人と一緒に座るなど思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に置くものは自由で使い慣れた物を自宅から持って来ていただくようにお話している。	各居室は、掃出し窓で採光が充分にある。利用者一人ひとりの馴染みの物を配置し、居心地良い環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すりが設置しており、伝いながら歩ける。トイレの位置がわかるように表示している。		